

<青森県> 大量来遊ルール発動後にTAC調整が発生する条件及び手法

資料2-3

- ・①～⑥を全て満たした場合、青森県のTAC調整を行う

青森県のTAC調整 必要条件

- | | |
|---|---|
| ① | 青森県の定置漁業（底建網含む）及び刺網漁業の12月及び翌年1月の1日当たりの合計漁獲量が60トンを超える。 |
| ② | 青森県が新潟漁調(水産庁)へデータ等の提出を行うと同時に、大量来遊ルール発動の要請を行う。 |
| ③ | 大量来遊ルールが発動する（発動された日に青森県の当初TACに600トンを追加）。 |
| ④ | ルール発動後、当管理年度内に青森県の漁獲実績が、青森県の当初TAC(試行水準)を超過する。 |
| ⑤ | 当管理年度の都道府県及び大臣管理区分の漁獲実績の合計が、当初TAC（ABC）を超過する。 |
| ⑥ | ルール発動の翌管理年度の資源評価で計算される当管理年度の再計算ABCが、漁獲実績の合計を下回る。 |

青森県のTAC調整 手法

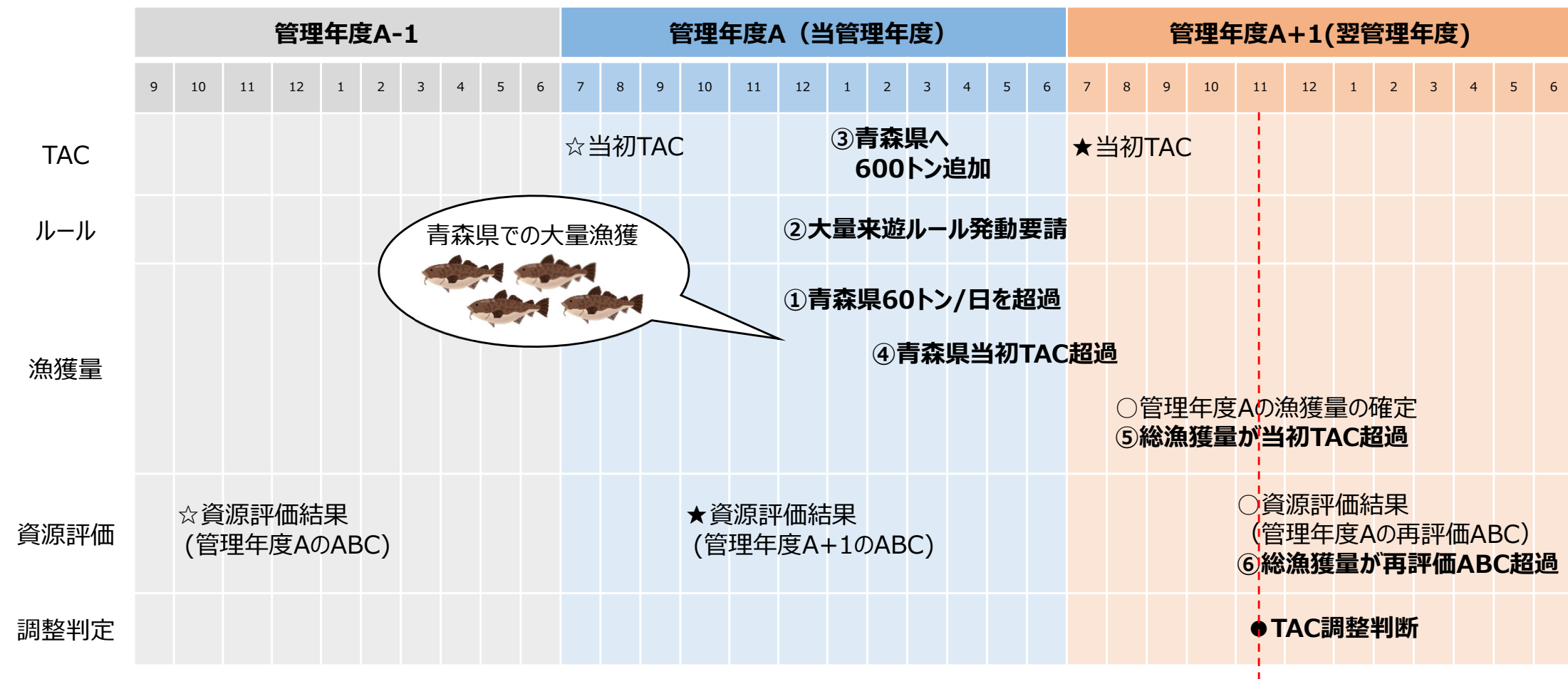
漁獲実績－再計算ABC（⑥の差分）または青森県の漁獲実績－青森県当初TACのいずれか小さい数量を、青森県の翌管理年度TACから差引く

※ステップ2 期間中は本ルールを試行する。

※大量来遊ルールは系群構造が判明するまでの間（2027年度の実運用を目指す）の暫定措置とする。

青森県での大量漁獲からTAC調整判断までのスケジュール(イメージ)

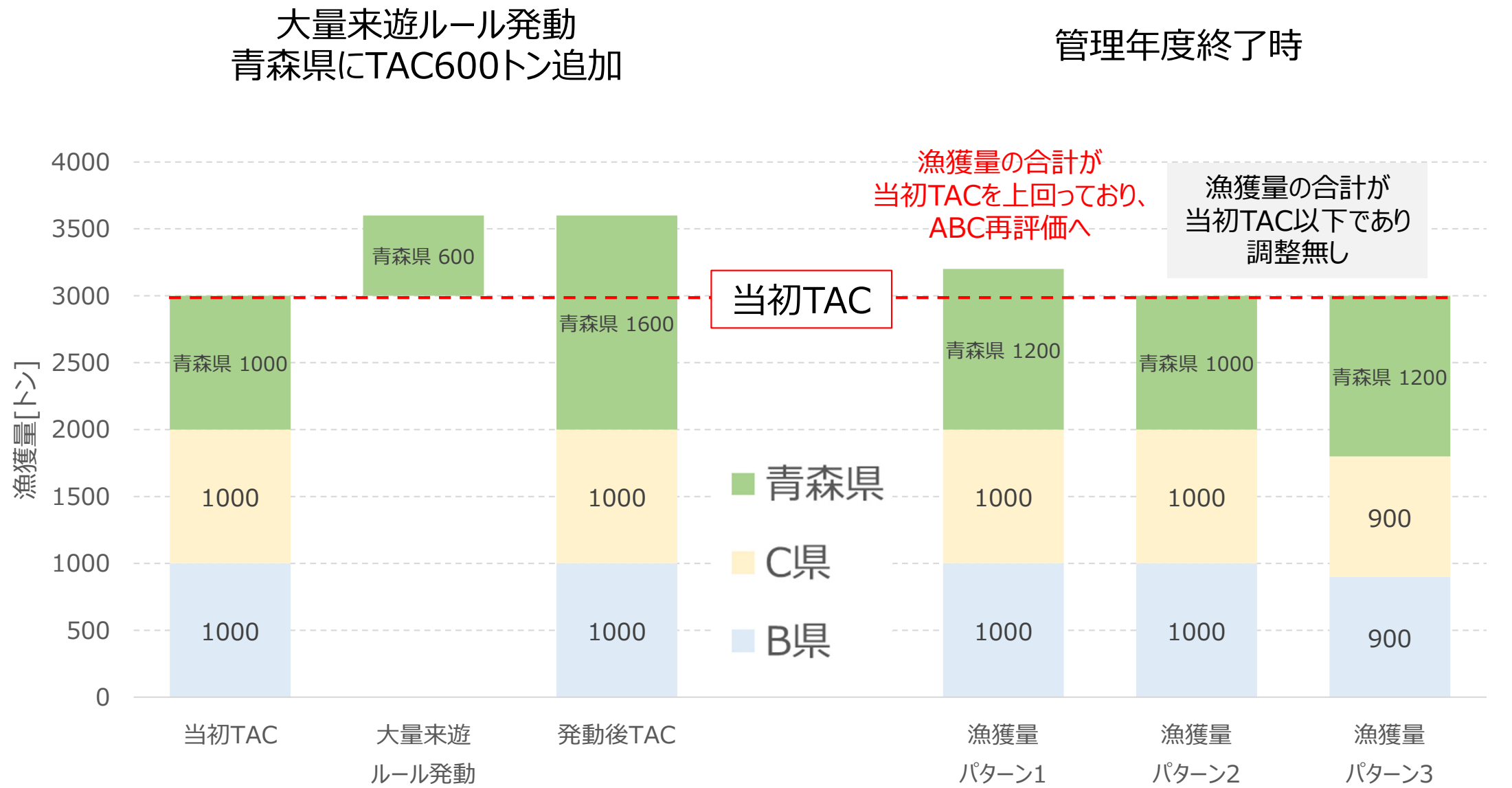
・TAC調整実施の判定は、翌管理年度の11月以降になる見込み（資源評価結果の公開を10月末で想定した場合）



※ステップ2 期間中は本ルールを試行する。
※大量来遊ルールは系群構造が判明するまでの間（2027年度の実運用を目指す）の暫定措置とする。

TAC調整判断 手順 1 (イメージ)

・漁獲量の合計が当初TACを下回っていれば、TAC調整は発生しない。

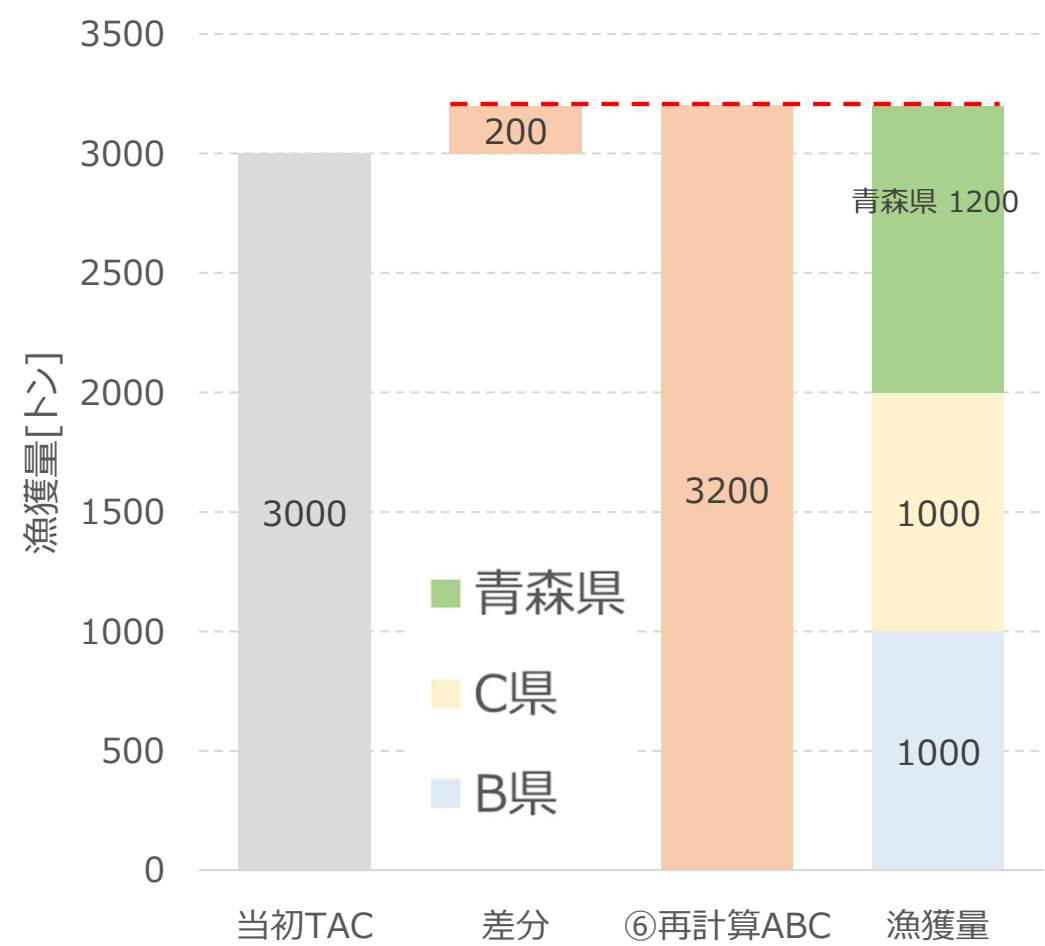


(④当 ⑤否)

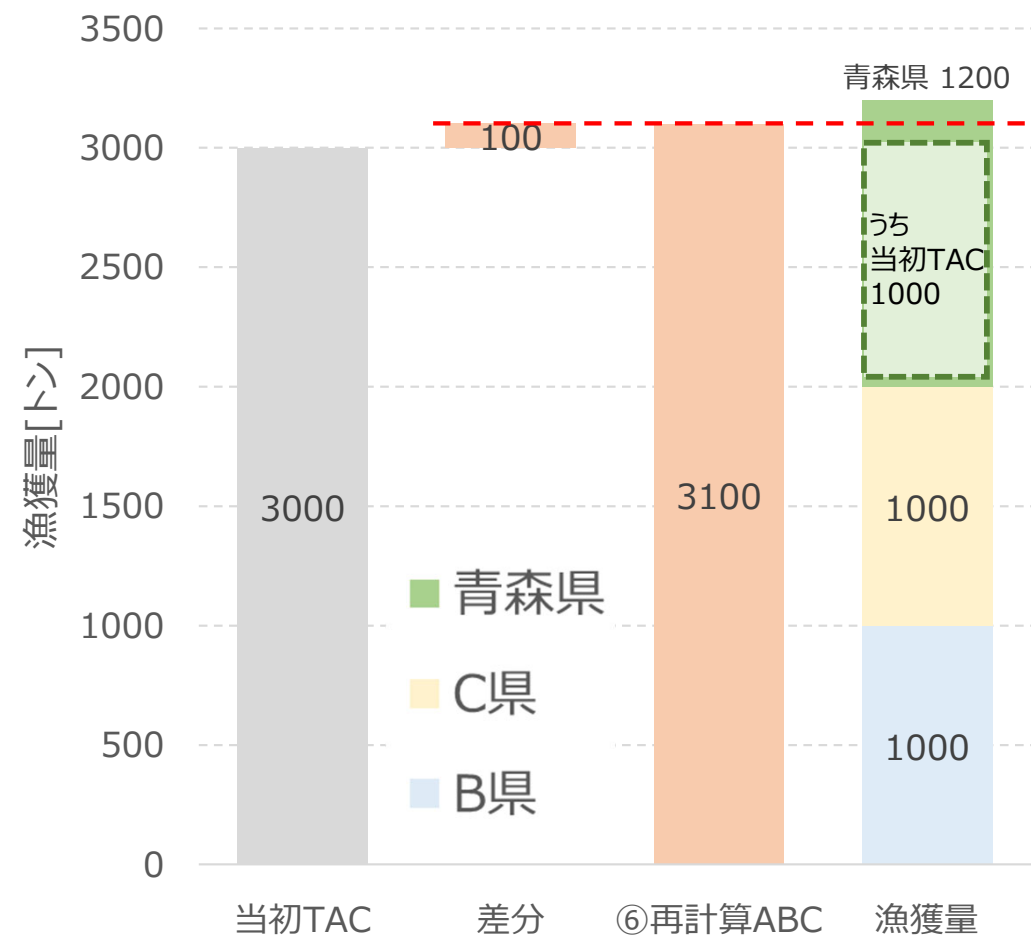
TAC調整判断 手順 2 (イメージ)

・ABCの再計算の結果次第で、翌管理年度のTAC調整の発生の有無及び調整が必要な場合の数量が決定。

再計算ABC－漁獲実績 = 0トン
TAC調整なし



再計算ABC－漁獲実績 = -100トン
TAC調整発生



参考：資源評価結果の年度による変動

資源評価結果は漁獲量以外の要因でも変動する。

令和4年度資源評価結果

表4-2. 資源解析結果

年	漁獲量 ^{*1} (トン)	資源量 (トン)	親魚量 (トン)	加入尾数 (3歳魚、万尾)	F/Fmsy	漁獲割合 (%)
2000	1,682	6,362	4,100	89	0.39	26
2001	1,287	6,288	4,241	126	0.27	20
2002	1,250	7,392	5,053	188	0	17
2003	1,314	9,626	6,832	263	0	14
2004	1,957	11,989	8,622	244	0.42	16
2005	3,024	13,012	8,839	179	0.55	23
2006	3,056	12,383	8,298	158	0.48	25
2007	3,668	11,655	6,913	172	0.34	31
2008	2,737	11,231	7,216	250	0.41	23
2009	3,204	12,234	7,695	253	0.68	26
2010	3,622	12,125	7,321	196	0.78	30
2011	3,730	11,391	6,487	199	0.83	33
2012	2,539	10,569	6,832	205	0.5	24
2013	3,066	11,037	6,981	204	0.7	26
2014	2,929	11,079	7,038	206	0.74	26
2015	3,153	10,662	6,486	171	0.74	30
2016	2,977	10,071	6,038	187	0.75	29
2017	2,492	10,435	6,587	256	0.63	23
2018	2,665	11,266	7,373	222	0.69	24
2019	2,631	10,791	7,363	115	0.48	24
2020	2,912	10,675	6,379	196	0.45	29
2021	2,693	10,363	6,440	-	0.65	26
2022						

^{*1} 漁業種別漁獲量の合計値。

^{*2} 本系群の親魚量は漁期後の値。

令和5年度資源評価結果

表4-2. 資源解析結果

年	漁獲量 ^{*1} (トン)	資源量 (トン)	親魚量 ^{*2} (トン)	加入尾数 (3歳魚、万尾)	漁獲割合 (%)	F/Fmsy	%SPR
2000	1,682	6,362	4,100	89	26	0.39	34
2001	1,287	6,288	4,241	126	20	0.27	38
2002	1,250	7,392	5,053	188	17	0.19	39
2003	1,314	9,626	6,832	264	14	0.28	39
2004	1,957	11,989	8,622	244	16	0.42	36
2005	3,024	13,012	8,839	179	23	0.55	32
2006	3,056	12,383	8,298	158	25	0.48	34
2007	3,668	11,655	6,913	173	31	0.34	32
2008	2,737	11,231	7,217	250	23	0.41	33
2009	3,204	12,235	7,696	253	26	0.68	27
2010	3,622	12,129	7,324	196	30	0.78	25
2011	3,730	11,401	6,495	200	33	0.83	24
2012	2,539	10,590	6,848	206	24	0.50	31
2013	3,066	11,078	7,013	205	26	0.69	27
2014	2,929	11,174	7,108	211	26	0.74	27
2015	3,153	10,823	6,621	176	29	0.72	27
2016	2,977	10,384	6,282	200	28	0.73	27
2017	2,492	11,230	7,155	299	22	0.59	31
2018	2,665	12,135	8,275	211	22	0.64	30
2019	2,631	11,576	8,185	103	23	0.44	34
2020	2,912	11,540	7,135	215	27	0.43	33
2021	2,693	10,546	6,929	141	26	0.58	31
2022	3,245	10,516	6,035	204	31	0.71	26

^{*1} 漁業種別漁獲量の合計値。

^{*2} 本系群の親魚量は漁期後の値。